

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900254		
法人名	医療法人社団沖田内科医院		
事業所名	グループホームさくら 陽だまりユニット		
所在地	島根県浜田市金城町七条ハ564番地1		
自己評価作成日	令和4年7月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.rokensaku.jp/32/i/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=3271900254-00&Pr_ofCd=32&Ver_si=0nc
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和4年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事やお茶の前、外出後は石鹸での手洗いに加えアルコールでの手指消毒を習慣となる様声掛けをし感染症等の予防や一人一人の健康に配慮しています。
寝たきりにならないよう筋力保持の為に役割を持って頂き、出来ることで無理なく動いていただける声掛けを実行しています。言葉使いにも気をつけるよう努力し、個々、興味のある話題の提供に努め、笑顔を引き出せる声掛けを心がけています。嚥下体操やラジオ体操も一日の流れの中に取り入れれています。また中庭に草花をおいたり、畑で季節の野菜を作る等 利用者と共に楽しんでいます。体調に変化があった場合早めに医師に相談する体制にもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、20年が過ぎ本年11月には21年目を迎え、経営母体が医療法人であることから、利用者・家族に体調管理・体調不良に対し、看護職も勤務されており、安心・安全に暮らせるなグループホームであると信頼されています。
急な体調変化にも医師・看護師が連携を取りながら、迅速な対応が行われています。
日々健康に過ごせるよう嚥下体操やラジオ体操を毎日の生活に楽しく組み込まれています。
コロナ禍になり、利用者が自由に外出のできない日々が続いている状況で少しでも楽しめるよう食事に対しては要望や好み、季節感、彩りも考えられたメニューが提供されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を作成し、それに基づき実施している。毎週月曜日に朝礼にて理念を確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。	職員は、運営理念・ケア理念を名札に入れ常に意識して支援にあたられています。朝礼にて唱和も行い、毎日確認して実践しておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過の中 地域との交流ができないでいる。	コロナ禍以前は、保育園や老人会と定期的な交流が行なわれていましたが、現在は中断しておられます。屋外作業の草刈りボランティアの方や近所が野菜を持って来て下さる方は継続しておられます。	コロナ禍でリアルな交流が難しい状況ですが、ビデオレター等を活用し交流を図られる事も良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春の親睦会(家族会)秋の敬老会などは新型コロナウイルスの為に、開催ができなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、サービスの実際について外部の目で助言をいただいている。書面開催の場合も助言を頂ける様お願いをしている。	行政や地域の方、家族の方の代表による委員により2ヶ月に1回開催されています。ホームの運営上の報告を行い、委員方より意見等頂きサービス向上に努めておられます。現在、感染予防の為に、書面開催で行なわれており、報告が中心となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員である支所の保健師と事業所の実情や取り組みを運営推進会議を通じて報告、相談している。	日頃から連絡を密にし、何かあれば質問をされています。介護保険の制度問合せ等も行っておられます。現在、市からはコロナ関係連絡が中心となっており、抗原検査キットの配布もありました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は鍵をかけない様になっている。身体拘束適正化委員会を3か月に1回開いている。	運営推進会議と別に3ヶ月ごとに身体拘束委員会が開催されており、職員にも内容の伝達が周知が図られています。定期的な研修も行い、身体拘束をしないケアに努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	事故等が発生した際にはなぜそうなったのか原因究明をする。また言葉使いなど、注意を払い気をつけていきたい。	法人で虐待防止の指針が策定されています。虐待防止委員会も設置されており、現在半年に1回開催されています。法人内で虐待防止の研修も行われ、職員は虐待に繋がらないよう気を付けながら防止に努めておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を説明し了承を得たうえで、契約している。また、制度改正がある場合再度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に表される機会はあるが、外部者にはそのような機会は少ない。また家族会、利用者への面会等、運営推進会議等に家族メンバーを加える事で機会を設けている。	利用者の方には、日々の生活の中で意見・要望等を聞いておられます。現在コロナの状況を見ながら、ガラス越しの面会が行なわれており、その際に家族の方に意見・要望等を聞いておられます。また、必要に応じて利用者の様子を電話連絡し、意見・要望等を伺っておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで随時意見は出されており、ユニット内で解決出来ることは随時解決し、出来ない場合は両ユニットの全体会議で話し合ったりしている。	毎月のユニット会議、全体会で意見・提案等を開いて日々の支援に反映しておられます。ユニット会議はモニタリングも兼ねており、利用者の様子についても話し合われます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績等の把握に努めている。	人事考課導入はないですが、面談は行なわれており職員の勤務状況の把握や評価が行なわれています。希望休や有給が取得できるよう配慮されています。資格手当もあります。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する老健に準じた年間計画はある。研修がある時は希望をとり、交代で参加できるようにしている。	法人に於いて年間の研修計画が作成され、研修参加希望者が研修に参加出来るよう調整しておられます。現在は研修はZOOMが中心になっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの間に本人を交え思いを聴く機会を作るよう努めたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまで家族等の思いを聴く機会を必ずつくり見学に来て頂くなど不安等を受け止める努力をしているがコロナ禍となり建物の中の見学が難しくなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援を利用していただけるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話やスキンシップを密にして、出来ることを手伝っていただく事で共に暮らすことに意識を持ち学び支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助や衣類の調整、色々な場面で家族へ相談し協力をえることで一緒に支えていただけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族や生活歴を話題に取り組み 大切にしてきた馴染みの人や場所が途切れないようにしている。感染症対応がありガラス越し面会となっているが家族との面会は短い時間でも支援したい	コロナ禍となり家族との面会もガラス越しやZOOM活用となっています。日々の会話の中に馴染みの人や場所を取り入れることで馴染みの関係が途切れないようにしておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	強制せず利用者同士が関わり合えるよう声掛けに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者はいませんが、家族のボランティアがあり大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動、表情を観察し一人一人の思いを把握するように努めている。	日頃より利用者と職員は、ゆったりと一緒に過ごす時間を多く持つように心掛け、リラックスした雰囲気の中で希望・意向等を伺うようにされています。意思表示の難しい場合には家族の方に聞いたり、今までの生活歴等を参考に本人本位となるようにしておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との会話の中から経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の健康状態、出来ること等の現状を把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて介護計画の見直しを行い、それぞれの意見を反映した介護計画書の作成に努めている。介護計画書にある項目を個人日誌に掲げチーム皆で確認していける仕組みになっている。	利用者の日々の様子については職員の意見を反映し、家族・医師からの意見・要望等も取り入れながら計画作成担当者により介護計画が作成されています。見直しは半年ごとに行なわれており、プラン変更の場合には変更した項目がよく分かるように工夫して取り組んでおられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録するための日誌に日々記入し情報を共有し同一の介護ができるよう活かしている。	日々の状況については、介護記録に記入しておられ、特記等については介護日誌に記入し、職員間で情報共有が行なわれています。日誌等を基に利用者の変化に基づき介護計画の見直しが進められています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常であれば利用者や家族が希望すれば外出や外泊がいつでも可能である。通院介助も家族の付き添いができない時などはホームで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過の為 自由に外出や外泊ができなかったが桜の時期にホームの庭でお花見等を行うことができた。また散歩にも行くことや畑作業が好きな利用者と短い時間でも作業をすることで喜んでいただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、家族に希望を聞き 適切な医療を受けて頂くよう支援している。	利用者・家族の意向で、全員が経営母体の医院をかかりつけ医とされ、定期的な往診や受診に出掛けられ安心しておられます。歯科も往診して下さるが、現在は受診に出かけられています。受診の際には職員が同行されています。他科受診等場合によっては家族同行もお願いされる事もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談をし早期に退院できるように努めている。	入院時には日頃の様子を伝え、病院の地域連携室との連携が図られています。退院時には退院カンファレンスが行なわれ、退院後の注意事項等の説明も行われスムーズな退院後のホーム生活に繋がっておられます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医等と話し合い全員で方針を共有している。「できること、できないこと」を見極め支援に取り組んでいる。	終末期の対応についての指針があり、利用開始時には説明が行われています。重度化が進んだ場合は医師、ホーム職員、家族で話し合いホームで出来る支援を継続されますが、医療行為が必要になる場合には入院や他施設に異動等も検討されます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設医療機関の協力の元実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回消防訓練を行っている。水、缶詰、米の備蓄の準備あり。	年2回避難訓練、消火訓練が行なわれています。現在、災害に応じた安全な避難を検討しております。備蓄についても整備しております。	BCP計画を作成中ですので、早期の完成を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシー確保に努めている。	コロナ禍以前は外部講師を招き、接遇研修も行われていました。尊厳を損ねないような言葉掛けを気を付け、プライバシー保護に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり話しかける選んでいただくなど、自己決定していただけるような声掛けで支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし可能な限りの希望にそような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類で清潔な衣類を身に着けていただけるように努めている。希望があれば散髪等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、配膳、片付けなど一人一人の力を生かしながら一緒に食事を楽しんでいる。利用者の食べたいものを聞き取りメニューへ取り入れたりしている。	ユニットごとに季節感や彩り、利用者の好みに合わせたメニューの工夫が行われています。食事の準備や食後の食器洗い、テーブル拭き等、可能な利用者の方には手伝いをして頂いています。畑で野菜が出来た時には、メニューに加えたり、誕生日にはケーキの用意もあります。手作りおやつも作られています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して何度も水分補給の場面を作っている。(一人一人の水分量を記録し把握している)。栄養摂取に対しても一人一人の状態を考え食べていただけるように工夫している。殆どの利用者が10割摂取である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じ 毎食後 口腔内洗浄の声掛けを行っている。定期的に入れ歯洗浄剤を使い清潔保持に努めている。	自分で出来る方は自室で磨かれています。歯磨き粉を付けて渡す方等、個々に応じた支援が行われています。入れ歯の方は歯を外し、うがいを入れ歯を綺麗にされて、定期的に洗浄支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じたトイレ誘導など声掛けをし失敗を減らし不潔にならないよう支援をしている。	一人ひとりの排便チェック表があり、排泄のパターンを把握し、声掛け、誘導、介助等、必要な支援が行われています。夜間も必要に応じて部屋を見回り、トイレ誘導、パット交換が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食材選び、日々少しでも身体を動かしていただく様に声を掛けている。排便に対しチェック表を活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の健康状態を把握し本人の意向も取り入れ無理なく入浴を楽しんでいただいている。	週に2～3回午後に入浴して頂かれています。入浴拒否の方もありますが、状況に応じてシャワー浴対応を行ったり、入浴日の変更等の工夫をされ入浴頂かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴、トイレ誘導するなど安心して気持ちよく休息していただける声掛け等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用 用法 用量について薬局より確認の為に用紙を貰っており、職員皆が目を通し周知している。薬を渡す際には 本人の名前を確認後開封し手渡しし、内服の確認をしている。	全体的な薬の管理は看護師が行い、個人ファイルにて副作用、用法、用量についての確認ができるようにしています。薬の変更があった場合は、看護師が内容をチェックし、職員に伝え、へんかが見られた場合に薬、報告を受けかかりつけ医に報告支持を得ておられます。確実に間違いなく服薬して頂ける様、内服確認しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を見つけ(ゴミ袋おり、落とし紙おり、トランプや花札、洗濯物干し、食材切り、ドライブ、パズル等)楽しみごとや気晴らしになるよう支援している。庭に畑もあり 草取りや収穫等 出来る範囲での参加をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関へ向かわれた利用者には外の空気を感じて頂くよう声を掛けている。	コロナ禍の為、従来の様に買い物に出掛けたり、家族との外出も制限されている現状です。普段よりホーム周辺に出て、外気に触れ、四季の移ろいを感じて頂ける様、外にイスも置かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を持っておられる方は0名。必要な物品があれば職員が購入後レシートで精算しており本人がお金を使う支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい利用者へは支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す飾り付けや、心地よく過ごせるように、カーテン等を利用している。不快な音が出ないように隙間にテープ等を使用し防音対策に努めている。	定期的な換気、温度管理も行なわれています。季節ごとの飾り付けの入れ替えも行ないながら、利用者の方が落ち着いて、くつろげる共用空間なるよう心掛けておられます。高性能空気清浄機の常時稼働も行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を廊下に置いている。利用者は思い思いに自分の居場所をつくり過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が家庭で使い慣れた物や好みの物を持ってきていただくように家族にお願いしている。	在宅時の様に居心地良く過ごせるよう慣れ親しんだものを持ち込んで頂くようにして頂いています。利用者身体状態に合わせた動線作りやエアコンの風向き等を検討してベッドの位置調整も行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、廊下等必要な場所へ手すりを設置したり、歩行器の使用等の工夫をしている。居室へ案内するための目印や居室入り口や食堂の椅子に個人名を入れ混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		